

受賞おめでとうございます

東京都赤十字奉仕団功労表彰

(敬称略)

- ◇銀色有功章（15年以上）
 - 飯野 綾子
- ◇金梓支部長感謝状（10年以上）
 - 田中 京子 菅 房子 町田 松子 中村 政恵
 - 中井富久江 平林貴以子 河原神風代
- ◇銀梓支部長感謝状（5年以上）
 - 高野千恵子 金井 敏明 米山千代子 秋山 崇一
 - 笹本 正則 木村 雄二 金堂 和典 浦野 栄一
 - 豊島 紀子 萩原 咲子 岡田 好司 長谷川朋子
 - 橋本 悦子

大田区青少年対策地区委員会永年功労者表彰

(10年以上)

- 溝口美枝子 和田 芳明 水島 玲子 庄司美也子

新井宿六丁目町会 盆おどり大会

わが町の「盆おどり大会」が8月17日と18日の2日間「さくら3丁目公園」で開催されました。うたと太鼓の音は人々に安らぎを与えます。いつの間にか人々の集い踊る輪は四重五重へと公園いっぱいに広がっていきました。町内にある観音通り共栄会通称「観音通り商店街」と町会はとても良い相互扶助関係です。共栄会の模擬店も大盛況でした。盆おどり2日目は共栄会のキャラクターのカノンちゃんの登場です。大きなカノンちゃんも踊りの輪に入り今年初めて披露されたカノンちゃん音頭で踊りやすい振付けに子どもたちも一緒に踊り、また、町会からのお菓子のプレゼントに大喜びです。やがては次の世代を担うであろう子どもたち、老いても満面の笑顔で見ていた人達の心は若い、活力と安らぎみなぎった楽しい盆おどりでした。こうした諸行事を安全に続けられるのも幸い町会に「親和会」があり、すべての設営等を陰で支えているのです。この若い力のメンバーに感謝します。(新井宿六丁目町会)

山王三・四丁目自治会 子どもまつり

防災の原点は絆です。山王三・四丁目自治会ではその絆づくりを楽しく行おうと毎年8月に子どもまつりを開催しています。年々参加者も増え、担当する防災協力隊では次々に企画が盛り上がっています。今回は大田区ならではの梅ちゃん先生に加えて、関係者のサポートを得てヘリコプターが上空にやってきました。上空からの災害状況報告が無線で会場に流れるさまに参加者も大歓声。安心づくりに際限はありません。

編集後記

今回の1面記事は入二小の創立90周年特集です。荻原さんに寄稿していただきました。いつの時代も、地域の学校がそこに存在していることは自分にとっての原風景ではないでしょうか。誠におめでとうございます。今後も益々の発展をお祈り申し上げます。(山崎編集委員)

入二小で初めての合同防災訓練を実施

10月28日、新井宿五丁目町会と新井宿七丁目町会が、共通の避難所である入新井第二小学校で初めての合同防災訓練を実施しました。当日は、市民消防隊が中心となり、大森消防署山谷出張所、消防団第4分団とともに、放水訓練、毛布担架での救護訓練、実際の炎を消す消火器訓練など、実践的訓練を行いました。途中、あいにくの雨で後半は体育館での講義となりました。200人以上の参加者の皆さんが、真剣に聞き入っている姿がとても印象的でした。



入二小 タイムカプセル開封式

9月1日、入二小体育館で、創立80周年記念の際に埋めたタイムカプセルの開封式が行われました。このタイムカプセルの形状は横76cm、縦20cm、幅20cmのロケット型です。中には当時の1年生から6年生までの児童の絵や作文が納められていました。暑い体育館の中で、主に当時6年生の同窓会になりました。12才だった人は22才になり思春期から青年期の激しい変化の10年間に思いを駆使したことでしょう。今年も創立90周年を記念してタイムカプセルを作るそうです。



8月4日、大森柳本通り商店街(ウィロード山王)にお休み処「アキナイ山王亭」がオープンしました

商店街にお越しのお客様が小休止したり、ふれあいを楽しむほっとスペースです。奥の通路からは、隣接する公園に出られる楽しいつくりになっています。公園では、電車を間近に見ることができますので、お子様も喜ぶことでしょう。毎週土曜日、定期市「石巻マルシェ」が立ちます。また、さわやかサポート入新井企画のパソコン教室やはつらつ喫茶などを開催しています。2階は貸し会議室です。皆様の憩いの場としてぜひご利用ください。

問合せ先：大森柳本通り商店街 3775-0373 (金海堂)



- 発行 地域力推進新井宿地区委員会
編集 「わがまち新井宿」編集委員会
- | | | |
|------------|--------|--------|
| 山王三・四丁目自治会 | 編集委員長 | 高橋 紗英子 |
| 山王三丁目東自治会 | 副編集委員長 | 荒木 秀樹 |
| 山王三・四丁目自治会 | 編集委員 | 山崎 三津子 |
| 山王三丁目町会 | 編集委員 | 荒井 壽子 |
| 中央一丁目町会 | 編集委員 | 齋藤 啓子 |
| 中央四丁目町会 | 編集委員 | 若生 一順 |
| 新井宿五丁目町会 | 編集委員 | 加藤 弘子 |
| 新井宿六丁目町会 | 編集委員 | 河原 神風代 |
| 新井宿七丁目町会 | 編集委員 | 落合 松枝 |
- ……共同編集……

監修 新井宿自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
大田区中央4-31-14 ☎3776-5391
<http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html>

わがまち Araijuku 新井宿



「私の好きな山王の町」
山王小6年
荒井りおんさんの作品

子どもを育む三つの輪 第3回

～学校・家庭・地域の連携を目指して～ 入新井第二小学校

今回は、今年開校90周年を迎えた入新井第二小学校の特集です。新井宿五丁目町会の荻原武雄さん(77才)から国民学校当時の思い出を寄稿していただきました。

私は昭和16年4月、入新井第二国民学校へ入学した。学校制度が変わって、「尋常小学校」が「国民学校」になったからである。(国民学校は昭和16年から6年間続き、昭和22年4月から「小学校」になった。だから、私たちは「国民学校」のみで「小学校」には行っていないことになる。)

校長は岡村先生、担任は河村先生で1学級の人数は60人以上だった。1・2組は男子、3・4組は女子と別れていて、一緒に何かすることはまずなかった。全校児童は1200人を超えていて、休み時間の校庭は大混雑だったが、それを利用して「駆逐水雷(戦闘水雷)」という遊びに熱中していたことを思い出す。校庭の南側に大きなヒマラヤ杉があり、それを陣地にしてた。

プールは校庭の西側にあった。3年生の頃バタ足でプールの半分まで行けたが、まん中が最も深くなっているのであわてた記憶がある。そのプールが、町の人々が供出した金物の入れ場(戦時中、政府が不足した金属を補うため家庭の金属類を供出させた)になっていたことを思い出す。

やがて太平洋戦争で日本は不利になり、昭和19年夏に学童疎開が始まり、私たち4年生は6年生とともに熱海の真誠館という旅館を宿舎に疎開生活を送った。温泉は出ず、食べ物は乏しく大変だったが、そんな中、先生方がみんなに小倉百人一首を教えてくださいました。強く心に残っている。

私は5年生になる時に縁故疎開に変わり、栃木県で終戦を迎え、5年生の途中で入新井第二国民学校へ「復帰」した。当時の、食べ物に苦労した毎日(庭で育てたカボチャの茎まで食べたりした)の思い出は忘れられない。戦災に遇わなかった校舎に、他の国民学校(後には新制の中学校)が何校か同居していたこともしっかり憶えている。(寄稿文より)

寄稿文にもあるように、入二小は幸いにも戦災を免れることができ、終戦後、地域からの物心両面の援助を受けていち早く復旧し、強い絆で結ばれながら地域住民の心のよりどころとなってきました。学校での最近の取り組みや活動は以下の通りですが、特に大田区人権教育協力校として授業や学校生活の中で、命の大切さや人を大切に作る心、お互いを認め合い尊重しあう姿勢を育てています。また、家庭の側からは、父親たちが「雷父親(らいふ)倶楽部」を結成し、学校に積極的に関わって成果を上げています。

- どんちっちの会
毎月、朝読書の時間に「どんちっちの会」の方による読み聞かせを行っています。学年や季節に合った楽しいお話を子どもたちは楽しみにしています。また、ここにブックランドや図書室に素敵な壁掲示もしていただいています。
- 福祉体験学習
高齢者体験や車椅子体験・誘導(白杖)体験など各学年の発達段階に応じた福祉体験学習を実施しています。本校は大田区人権教育協力校でもあり、生命がかけがえないものであるという「心の教育」を大切にしています。
- 入二フェスタ
PTA行事として夏休みに「入二フェスタ」を実施しています。今年度も、雷父親(らいふ)倶楽部や教員も参加し、出店、金管バンド・ダンスクラブによる発表、キャンプファイヤー等楽しいひと時を過ごし、交流を深めました。



新井宿 歴史散歩(其の一) *.*.*.*.*

歴史ミステリー
一枚の写真

今年の6月のある日、山王三丁目町会の方から一枚の写真(右の写真:ほぼ原寸大)が編集委員会事務局に持ち込まれました。知り合いの方から預かっていた写真で、昭和7年頃の祭りの写真というだけで詳しいことは何も分からないとのこと。どこの神社の祭りなのか。もしかしたら読者の方やお知り合いの方が写っているかもしれないということでした。(お心当たりの方は、是非、編集委員会にご連絡いただければと思います。)

早速、編集委員が調査を開始。はじめに写真から読み取れる文字に注目してみました。

1. 小さな祭り提灯の「美奈見町」
2. 大きな祭り提灯の「美奈見町長田」
3. 奉納幕右側の「昭和五年六月吉日」
4. 子どもたちの祭り半纏の「美奈見町」
5. 写真右側の奉納芳名板の「酒肴料 一金壹円也」、「サイダー」、「葡萄酒」など

この写真の場所は神社の境内ではなく、祭りのために一時的に設置された御神酒所のようにみえます。では、現在のどこの自治会・町会の御神酒所に当たるのでしょうか?

大きな祭り提灯に書かれた「美奈見町長田」という地名が手がかりになりそうです。

古い地名を調べるため、大田文化の森情報館の図書コーナーに行き、新井宿の歴史が書かれている昭和2年発行の『入新井町誌』を見つけました。

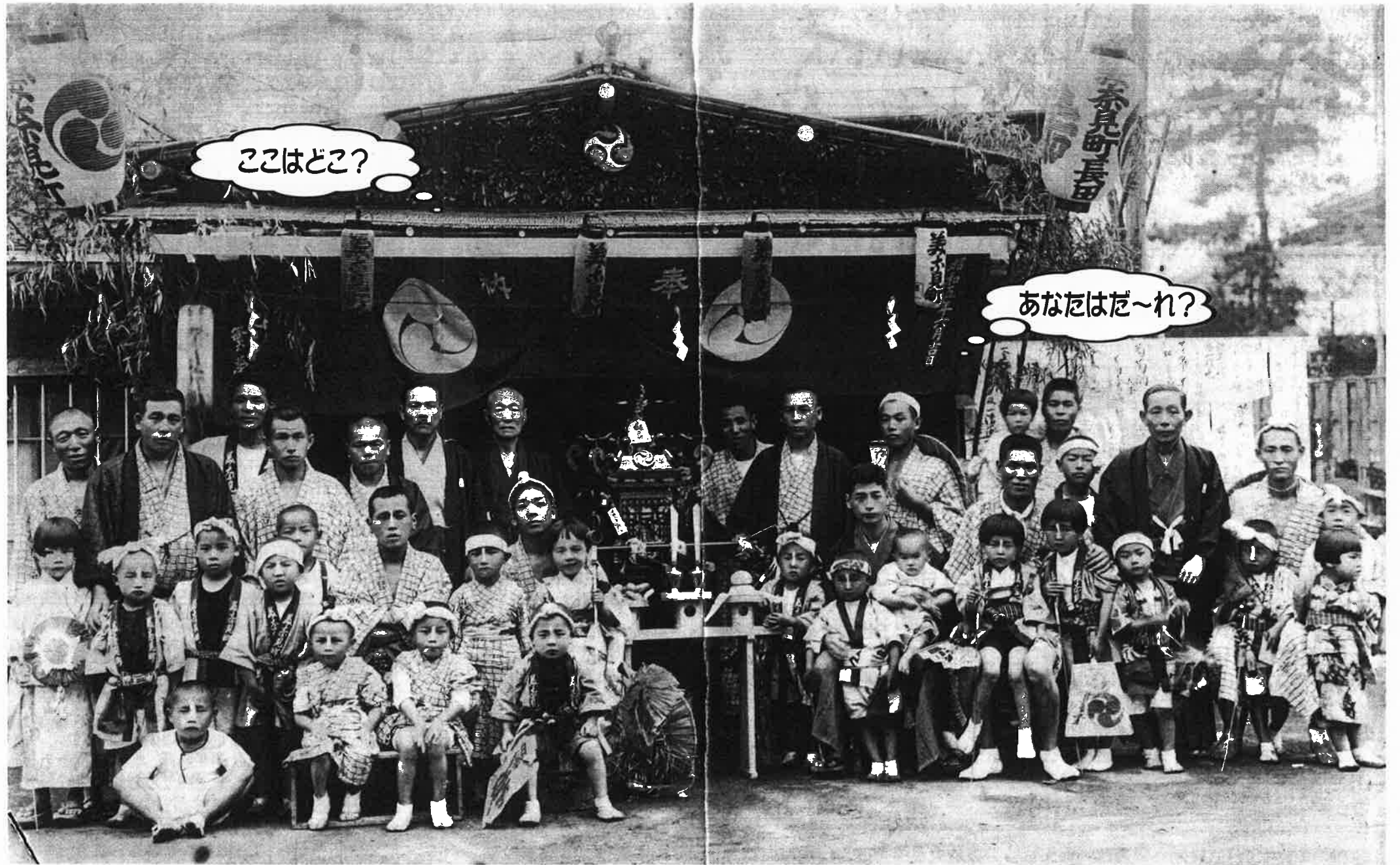
『入新井町誌』によると

江戸時代後期には、既に新井宿村と不入斗(いりやまず)村が存在し、明治22年に2つの村が合併し「入新井村」となり、さらに大正8年には「入新井町」となりました。昭和7年には、東京市大森区となり、新井宿村だったエリアは、山王1・2丁目と新井宿1~7丁目に区画され、そして昭和39~40年の住居表示変更により、現在の形になりました。

この『入新井町誌』の巻頭に掲載されている「新井宿村 不入斗村全図(明治九年実測)」【図1】の新井宿村のエリアには16の小字があり、その中に「字美奈見」と「字長田」という小字も載っていました。しかしこれらの地名はあくまでも「新井宿村字美奈見」、「新井宿村字長田」であって、「美奈見町長田」の表記の意味が分かりません。

更に詳しく『入新井町誌』を読み進めると

昭和2年頃、入新井町大字新井宿は16の小字とは別に、山王区、八景坂区、中区、美奈見区の4つの区画に分か



れていたことが判明しました。問題の長田が、美奈見区に属し、「美奈見区の長田」だったとすれば、一般に「美奈見町長田」と呼ばれていたとしても不思議ではないと思われます。ちなみに大正15年4月現在の美奈見区長は、岩井文太郎さんでした。

「字長田」の位置は、新旧の地図を照合し、現在の新井宿地区の8自治会・町会に当てはめてみると、新井宿五丁目町会の北東部分に当たり、南西部分は「字皿沼」に当たることが分かりました。

春日神社の祭りだった?

現在、新井宿五丁目町会の氏神様は、春日神社ですから神社との関係が今と同じだったとすれば、この写真は春日神社の祭りの際に撮られたと考えるのが自然かと思われます。

「字長田」のエリアには今も長田稻荷という神社があります。大田区教育委員会発行の『大田区の神社』にその

由緒が次のように記載されています。

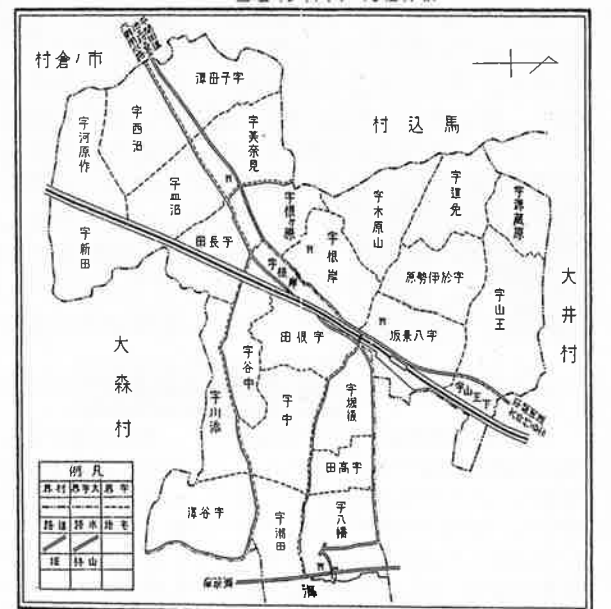
「当社は俗に長田稻荷と呼ばれている。熊野の神主長田氏がこの地に来て当社を創立したのでこの名があるといわれている。」

この由緒から考えると長田という地名は、この長田氏の苗字に由来するのかもしれませんが。

では、ひとまずこれにて今回の「新井宿 歴史散歩」、終了とさせていただきます。



読者の皆様のお家にも、貴重な戦前戦後の懐かしい写真が、まだたくさん眠っているかも知れません。是非、編集委員会宛お持ち込み下さい。懐かしい写真を集めた特集記事を企画したいと思いますのでご協力のほどよろしくお願いたします。



【図1】「新井宿村 不入斗村全図(明治九年実測)」